

- ・ sample3: 二次元差分法解析結果の可視化と 2 つのコントロールパネル
- ・ sample4: 二次元有限要素法解析結果の可視化と 2 つのコントロールパネル
- ・ sample5: 三次元イベント処理の可能なメイン窓とコントロールパネル
- ・ sample6: 二次元イベント処理の可能なメイン窓とコントロールパネル
- ・ sample7: 三次元差分法解析結果の可視化。等値面と断面表示。2 つのコントロールパネル
- ・ sample8: 三次元プリミティブを描画

(2)sample_cpp

- ・ sample1: sample_c の sample1 と同じ機能
- ・ sample2: sample_c の sample2.c と同じ機能

(3)sample_f

- ・ sample1: 原点と各座標軸に一つずつ頂点を持つ四面体を描画

1.3 コマンドの概要

1.3.1 おてがるコマンド

各種可視化を行うコマンドです。

表 1.3.1-1 可視化コマンドの説明

コマンド	入力ファイル	出力ファイル	機能	コメント
advauto_pchview patch.pch	patch.pch	(image.ppm)	表面パッチの表示、回転、平行移動、ズーム、画像保存	図 1.3.1-1 、 図 1.3.1-2 参照
advauto_mshview mesh.msh faceGroup.fgr	mesh.msh faceGroup.fgr	(image.ppm)	メッシュ表面の表面パッチの表示、回転、平行移動、ズーム、画像保存	10 節点四面体要素のみに対応。 図 1.3.1-3 、 図 1.3.1-2 参照。
advauto_fgrview mesh.msh faceGroup.fgr	mesh.msh faceGroup.fgr	(image.ppm)	全ての表面グループ番号の表示。メッシュ形状の表示、回転、平行移動、ズーム。表面グループ番号付き画像保存	図 1.3.1-4 、 図 1.3.1-5 参照。パネルの Parameters の Length の値を変更することで、数字と表面グループの間を結ぶ直線の長さを変更できる。
advauto_solidview mesh.msh faceGroup.fgr	mesh.msh faceGroup.fgr Displacement.dat NodalEquivalentStress.dat	(image.ppm)	変形図と相当応力コンター図の表示。回転、平行移動、ズーム、画像保存。メッシュの同時表示の On/Off。変形の拡大率の変更。色レンジの変更。	図 1.3.1-6 、 図 1.3.1-7 参照。 Displacement.dat と NodalEquivalentStress.dat は hddmmrg コマンドで解析結果より作成すること。
advauto_thermalview	mesh.msh faceGroup.fgr	(image.ppm)	温度コンター図の表示。	図 3.1.3-2 参照。

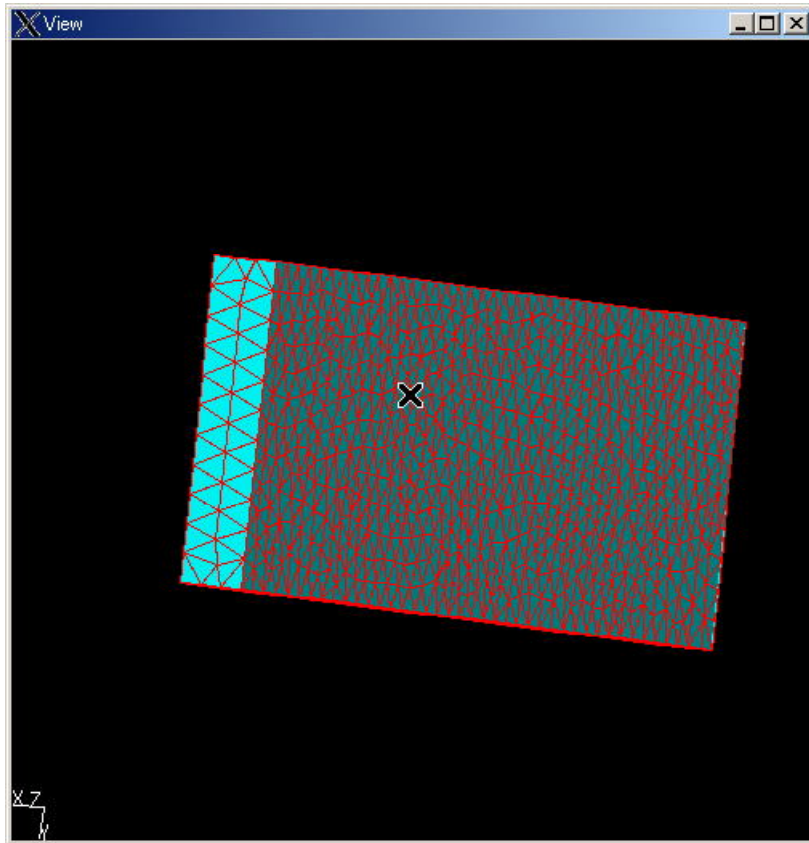


図 1.3.1-1 advauto_pchview による表面パッチ表示

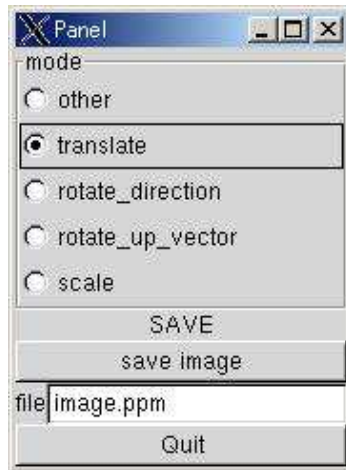


図 1.3.1-2 advauto_pchview と advauto_mshview のコントロールパネル

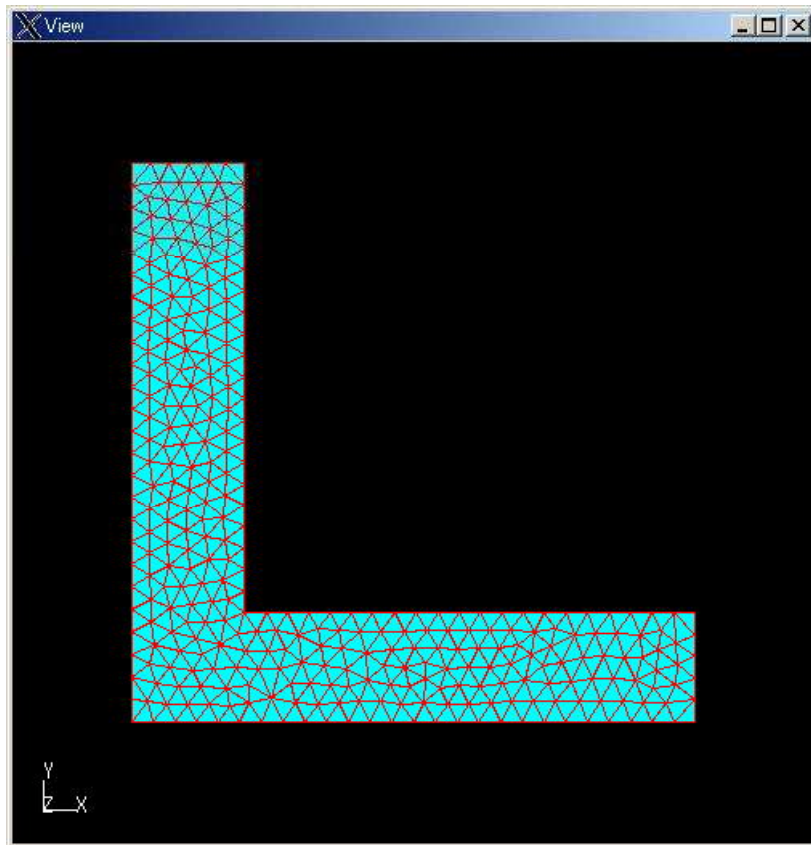


図 1.3.1-3 advauto_mshview によるメッシュ表示

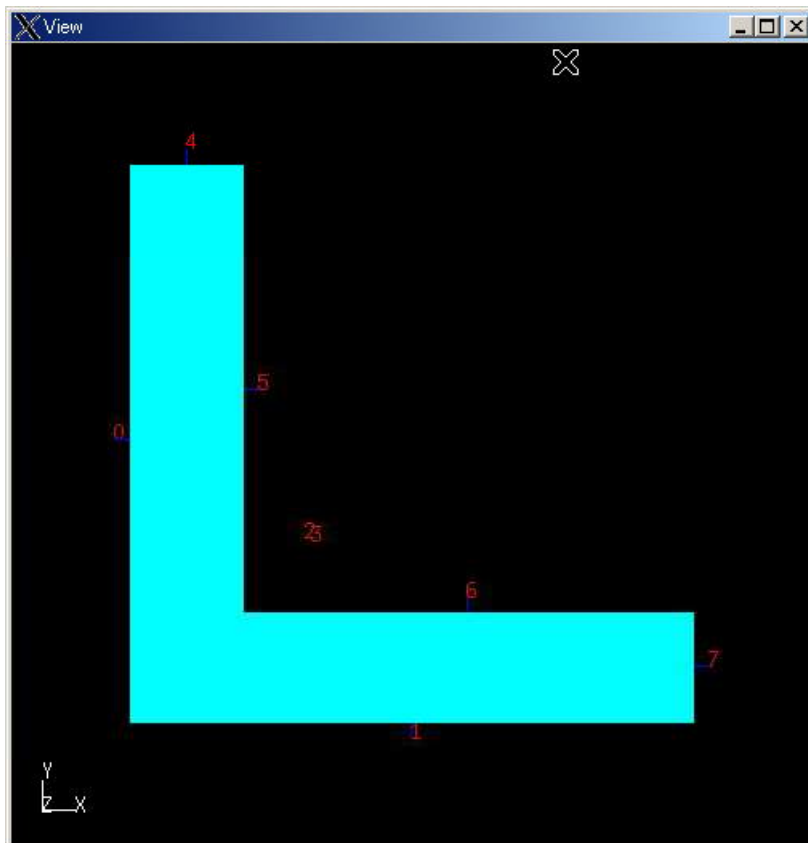


図 1.3.1-4 advauto_fgview

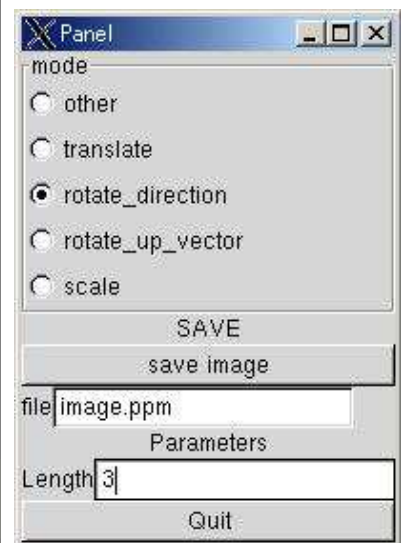


図 1.3.1-5 同左コントロールパネル